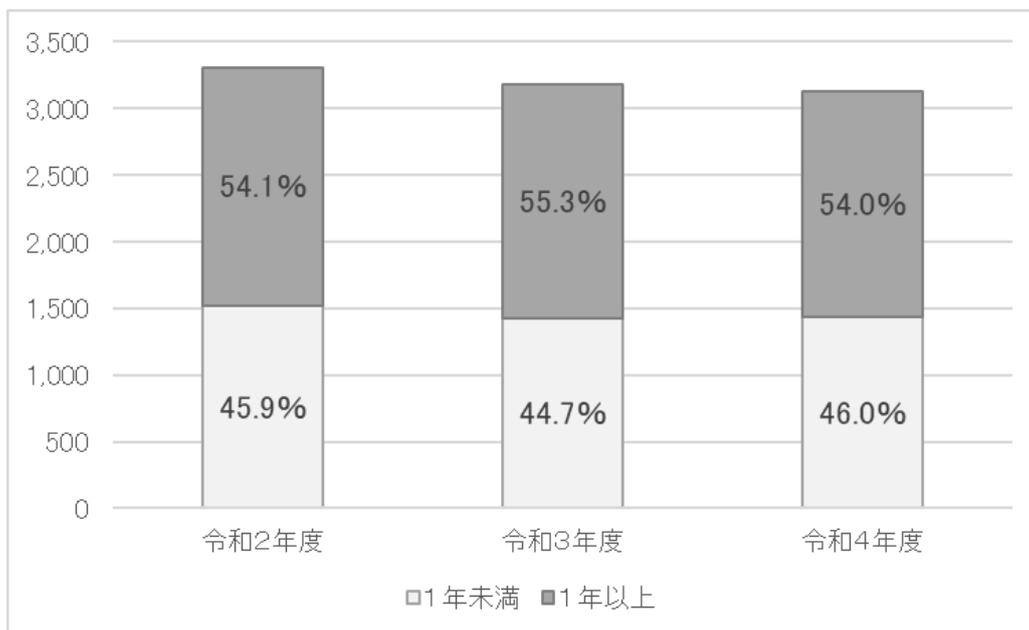


令和4年度精神科在院患者調査からの報告について

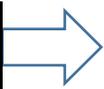
1. 在院期間(まるめ)別入院者数推移(令和2～4年度)

	令和2年度		令和3年度		令和4年度	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
～3か月	929	28.1%	877	27.6%	947	30.3%
3～6か月	289	8.7%	268	8.4%	221	7.1%
6か月～1年	302	9.1%	279	8.8%	269	8.6%
1～2年	392	11.8%	365	11.5%	305	9.8%
2～3年	218	6.6%	261	8.2%	244	7.8%
3～5年	294	8.9%	295	9.3%	322	10.3%
5～10年	390	11.8%	364	11.4%	358	11.4%
10～20年	301	9.1%	287	9.0%	287	9.2%
20年～	194	5.9%	187	5.9%	174	5.6%
計	3,309	100.0%	3,183	100.0%	3,127	100.0%
1年未満(再掲)	1,520	45.9%	1,424	44.7%	1,437	46.0%
1年以上(再掲)	1,789	54.1%	1,759	55.3%	1,690	54.0%



入院者数は減少傾向。全入院者に占める1年以上入院者の割合は、令和2年度54.1%、3年度55.3%、4年度54.0%と、大きな変化はない。

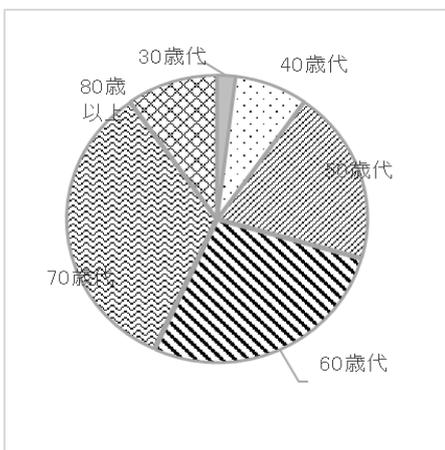
2. 1年以上入院者の状態像と寛解・院内寛解者の退院予定の有無(令和4年度)

寛解	10	0.6%		病状(主症状)が落ち着き、入院によらない形で治療ができる程度まで回復		病状(主症状)が不安定で入院による治療が必要		退院予定		
院内寛解	83	4.9%		寛解(10人)	5	50.0%	0		5	50.0%
軽度	312	18.5%		院内寛解(83人)	46	55.4%	29	34.9%	8	9.6%
中度	716	42.4%								
重度	481	28.5%								
最重度	88	5.2%								
	1,690	100.0%								

1年以上入院者の状態像は中度が最も多く、次に重度、軽度の順が多い。
寛解・院内寛解は、合わせて93人(5.5%)。そのうち「入院によらない形で治療ができる程度まで回復」とされる者が51人と、過半数を占める。

3. 「入院によらない形で治療ができる程度まで回復」とされる者83人の状況

【年齢】			
30歳代	1	2.0%	
40歳代	4	7.8%	
50歳代	10	19.6%	
60歳代	14	27.5%	
70歳代	17	33.3%	
80歳以上	5	9.8%	
計	51	100.0%	
(再)65歳未満	20	39.2%	
(再)65歳以上	31	60.8%	



70歳代が最も多く、次に60歳代、50歳代が多い。65歳以上が6割を占める。

【生活保護受給の有無】			
あり	17	33.3%	
なし	34	66.7%	
計	51	100.0%	

生活保護受給中が3割を占める。

4. 地域移行に向けた支援の方向性

入院期間が1年以上で状態像が寛解または院内寛解、かつ退院予定の分類が「病状(主症状)が落ち着き、入院によらない形で治療ができる程度まで回復」となっている者51人について、重点的に地域移行を推進すべきと考える。

また、6割を占める65歳以上の方の支援にあたっては、地域包括支援センター等の高齢者関係の支援機関とも連携するなど、個別性に合わせた支援を行う必要がある。

今後、上記51人を含め、寛解・院内寛解にある方の入院先を中心に連携を図り、地域生活移行推進事業及び被保護精神障がい者等地域移行支援事業の事業説明や利用を働きかける等、積極的に取り組んでいく。